



言語活動の充実と他教科等との関連

鎌倉女子大学教育学部准教授
松永立志

教科をつなぐ言語活動

国語科で培った能力を基本に、全ての教科等において言語活動の充実を図ることが求められています。どのような言語活動が、どのように教科をつないでいるのか――。

まずは、国語科の役割、他教科との具体的な関連の例について、ご提言をいただきました。それに続き、社会科、算数科、理科それぞれの立場から、その教科における言語活動の重要性、指導の際の留意点などについてのご提言をいただいています。

1 なぜ「言語活動の充実」なのか

学習指導要領改訂の最大の柱は「言語活動の充実」であった。言語活動例が内容の(2)に位置づき、言語活動を通して指導事項を指導することが示された。では、なぜ今、「言語活動の充実」なのだろうか。

それは、国語科の指導事項の抽象度が高いことによる。何を教えたらいいかわからないといった声がよく聞かれ、授業改善が難しい状況にあったのだ。そこで、言語活動を通して、教える中身を明確にするという考えが打ち出されたものといえる。

「推薦する」という言語活動について考えてみよう。推薦は、目的があって行われる行為であり、推薦される事物や人物が、その目的に達しなければならぬ。そのために、推薦する内容(言語内容)を考えることと、その内容をどのような順序で組み立て、どこを強調し、どんな言葉や話し方

で推薦するかという方法(言語形式)を考えることの両方を、はつきりさせなければならぬ。この両者を一体化させた言語活動を、学習指導に意識的に位置づければ、教える中身もおのずからはつきりとしてくるのである。

2 言語活動の充実の留意点

言語活動を考える際に留意したい点がある。

一つ目は、相手や目的、意図を、子どもにしっかりと意識させて取り組ませるということである。目的を意識化するには、目的を示す言語活動が、単元全体を貫いていなければならぬ。つまり、単元の始まりから終わりまで、自分たちの目的を達成していく活動が展開されるということである。相手を意識化するには、相手のもつ言語経験や興味・関心・必要感等の実状に合わせ

て、言語活動を工夫することが必要になる。つまり、相手によって、自分たちの言語活動の質や方向などが変わってくるのである。

二つ目は、動作化などの「言語によらない」言語活動を、言語とつなぐことである。国語科の授業においては、挿絵・動作化・劇化・音読・絵画・映像・音響・音楽・踊りなど、言語以外の手段や手法を使って、理解・表現する活動が、多く取り入れられている。これらは、言語経験や言語量の不足により、言語だけで理解・表現することが困難な子どもたちに対して、言語を補完する役割を果たしている。しかし、ややもすると、活動すること自体が授業の目的になっている場合がある。これでは、国語科の授業とはいえない。活動をする理由や目的を、教材文の記述に立ち戻って、学級全員で共有する必要がある。このことが、言語を補完する役割を、本来の言語の役割に置き換えていくことになり、言語活動が言葉の能力の育成に直結することになる。

3 他教科等との関連の必要性

思考力、判断力、表現力等の基盤となる言語能力の育成の議論に伴い、習得・活用・探究のプロセスが注目されている。

記録する、報告する、説明する、表現する、評価する、発表する、話し合う、討論するなどといった言語活動を、必然性をもって行えるような内容や機能・目的が、各教科等の学習の中には豊かに存在する。また、国語科の学習以上に、具体的な相手や目的をもった学習場面が数多くある。さらに、言語によらない活動を、言語につなげ、置き換える場面も、また多く存在している。ここに、実生活・実社会に生きる言語の力と直結する、言語活動の可能性の広がり、言語活動の充実につながる授業改善の必要性が見えてくる。

4 教科書教材における具体的関連の例

光村図書「国語」教科書の具体的教材との関連について考えてみよう。その最大の可能性を秘める教科等は、生活科と総合的

な学習の時間である。これらの学習では、記録、要約、説明、論述といった言語活動はもちろん、コミュニケーションや話し合い、発表、資料の収集・活用などの活動が、具体的な相手や目的の達成に向けて行われている。特に低学年の生活科においては、次のような関連が考えられる。

学年・巻・教材名	関連
一年下 見せたいな	家庭と生活 家族の紹介
一年下 いいこと いっぱい	自分の成長 成長の振り返り
二年上 かんさつ名人 になろう	動植物の飼育栽培 野菜を育てた観察記録

算数科の学習では、「各領域の内容は算数的活動を通して指導するもの」と明示され、その重要性が指摘された。この算数的活動における言語の役割として、数・式・図・表・グラフ・具体物などが挙げられる。これらを用いて、説明する、表現する、応用する、判断する、推論するなどの活動と関連性をもたせることが重要となる。

教科書における「話し合う」系列の学習においては、特別活動である学級活動や児童会活動との連携が望ましい。具体的には次のような教材が該当するだろう。

- ・二年下「みんなできめよう」
- ・三年上「わたしたちの学校行事」

5 関連化にあたっての留意点

他教科等との関連化にあたっては、国語科で言語操作の技術を学んで、他教科等へ活用するという流れもあるが、逆の流れについても、効果を考えながら留意したい。

例えば、実際にまず学級会で話し合い、うまくいかない経験や課題をもってから、国語科の学習に入るという流れが考えられる。また、社会科や理科などの学習で、具体的な観察結果や調査データなどを得てから、記録・報告・説明などの技術を国語科で学ぶ過程で、その都度、自分の表現に生かし、しあげていく流れも考えられる。

このように、自分の表現活動をはつきりと意識させたり、活動に対する意欲をもたせたりするうえで、効果的と思われる学習の流れを考えて、他教科等との関連を構想すべきであろう。

また、この関連を学校全体の取り組みとしていくために、学校としての関連を押さえた教育課程の年間指導計画を、確実に整備しなければならない。一人一人の担任に委ねるべきものでは決してないのである。

学年・巻	教材名	関連
三年上	手紙を書こう	・地域公共施設、地域生産業や販売業者の見学の際、依頼状や礼状を書くこと。
三年上	コラム「インタビュー」	・インタビューの内容や方法を考えること。
三年下	本で調べて、ほうこくしよう	昔の暮らしの中で、道具、生活、年中行事などを調べて報告すること。
四年上	読書生活について考えよう	学校のごみ、水道、地域の交通事故や火事などの問題を調べて、アンケートやグラフなどをもとに報告すること。
四年上	だれもが関わり合えるように	地域の土地利用に関して、新田開発地などを見学すること。
四年下	聞き取りメモの工夫	新聞社見学に際し、見学の視点やインタビューに生かすこと。
五年	新聞を読もう	放送局、農業・水産業施設、工場等の見学でインタビューすること。
五年	きいて、きいて、きいてみよう	わたしたちの国土について調べること。
五年	コラム「インターネットを使って調べる」	これからの食料生産における自給や食の安全の問題を説明すること。
五年	グラフや表を引用して書こう	政治とわたしたちの生活における、世界の中の日本と平和について、意見を書いたり述べたりすること。
六年	「平和」について考える	

学年・巻	教材名	関連
四年上	新聞を作ろう	・各季節の中での動物や植物について、観察した結果を新聞で知らせること。
五年	コラム「インターネットを使って調べる」	・宿泊体験学習の出来事を新聞で報告すること。
五年	グラフや表を引用して書こう	天気の変化を調べること。
六年	「平和」について考える	ものの溶け方の実験方法や結果を説明すること。
六年	「平和」について考える	生物と水・空気との関わりにおける、環境と人間生活のあり方について、意見を書いたり話したりすること。

松永立志

鹿児島県生まれ。横浜市教育委員会事務局教育課程開発課長、学校教育部長、横浜市立東小学校校長等を経て現職。主な編著書に「小学校新学習指導要領の授業 国語科実践事例集 1年／2年」（小学館）などがある。小学校学習指導要領解説国語編作成協力者として、学習指導要領の検討に当たった。光村図書の小学校「国語」教科書編集委員を務める。

